

はじめに

技術研究所 所長 西原 寛

昨年の東日本大震災での大規模かつ広範な被害に対する震災復旧・復興や除染が本格化してきました。また、新たなリスク管理に基づく首都圏直下型、東海・東南海・南海地震での被害想定が出され、その被害の大きさに日本は自然災害大国であると社会基盤整備の重要性が再認識されています。

自然災害での人的被害に対する最も効果的な対策は、インフラの整備や建設技術も進歩する経済発展だと言われています。反面、その発展により経済的被害が大きくなり、大規模な災害では経済の長期的衰退が危惧されると言われています。

日本は経済大国として先人の努力により「安全と安心」な社会が実現されているはずでしたが、新たな多くの課題が提示されています。これからの少子高齢化社会の到来やエネルギー問題等多くの困難の中で英知を絞り、これらを正当なリスク評価に基づき克服しなければなりません。今後、益々建設業への社会的使命や役割の重要性が高まるものと思われませんが、我々も多くの方々とスクラムを組みこれらの課題解決に向けいささかなりとも寄与する所存です。

当社は、2013年4月1日に長きにわたり信頼・協力関係を築いてきた株式会社間組と新たなスクラムを組み、新会社「安藤・間」としてスタートします。

技術研究所では新会社での技術・研究開発の重点施策の検討を現在、進めております。これまで以上に社会や顧客に貢献する専門家集団として情報発信出来るよう努めてまいります。

当社としての技術研究所報は本報(Vol.18)を持って装いを改めることになりますが、本報では、地震動や構工法の開発、品質保証分野を中心に各研究グループから10テーマについて報告しています。関係各位のご高覧を頂ければ幸甚に存じます。

最後になりますが、これまでの皆様から頂いたご支援ご指導に感謝を申し上げますと共に、今後とも変わらぬご指導とご協力をお願い申し上げます。また、本報に至るまでご尽力いただいた先輩諸兄姉に厚く御礼を申し上げます。

2012年11月